

環境と調和した未来社会を実現する

ディーウェザー株式会社

2026年9月



微気象インフラの実現

人間社会の利便性と自然環境の持続性が両立する未来へ



Vision

微気象インフラを社会実装し
日本から世界中に広める

Mission

環境と調和した未来社会の実現

東京科学大学発スタートアップ（第149号）

創業： 2023年3月

経営陣： 大西 領（東京科学大学教授 兼 取締役） / 安田 勇輝（シーズホルダー 兼 取締役）
小西 亮平（代表取締役）

許認可： 気象庁による気象予報業務許可（許可第251号）

本社： 東京都港区芝浦3-3-6 東京科学大学INDEST（最寄り駅：JR田町駅）

採択実績： NEDO NEP 躍進3000 (2024-25)、優秀賞

経産省 Go-Tech (2025-26)

三菱UFJ技術育成財団 助成金 (2025-26)

GREEN VALLEY SHIBUYA powered by 東急不動産 (2026)

環境省 環境保全研究費補助金 (2026-2027)

社会課題

生活や現場に影響を与えているのは、広域の代表値ではなく、現場の気象

現場の気象

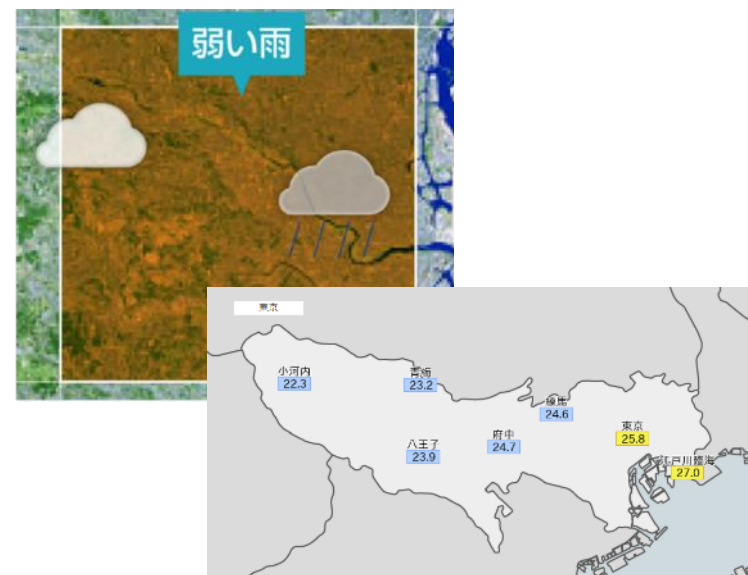
その場、その瞬間の気象



ギャップ
↔

広域気象データ

数km~数10kmエリアの代表値



熱中症警戒アラート

ビル風、上空の強風、ヒートスポット、ゲリラ豪雨といった
現場の気象を予め知る手段が存在しない

微気象

建物や人間活動などの影響を強く受ける
低高度の気象現象

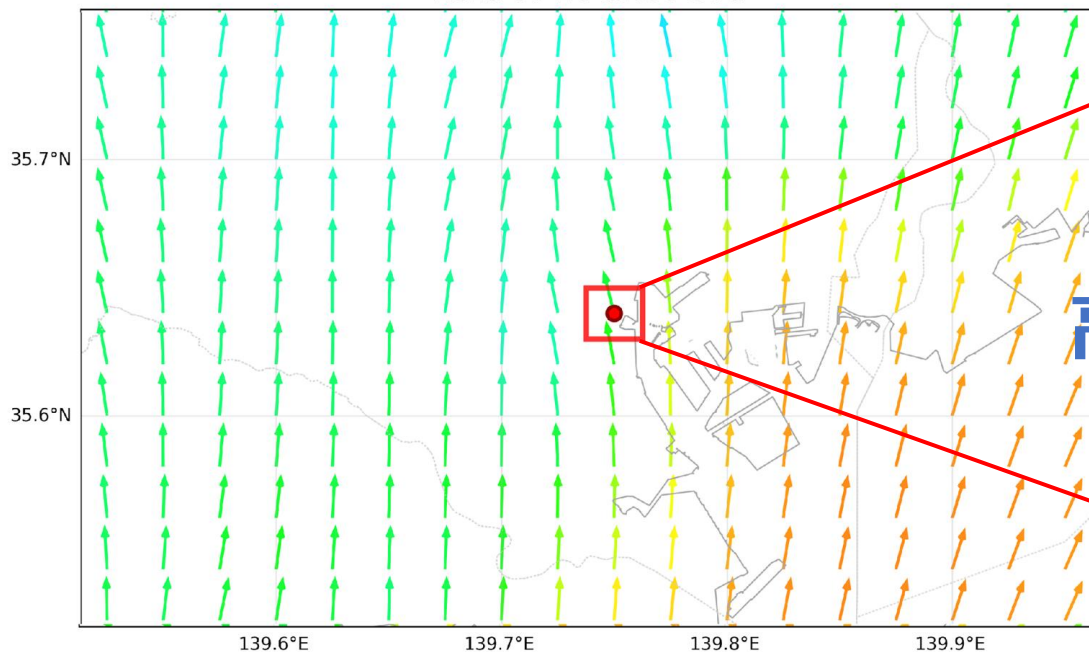
Temperature



天気予報と微気象予測の違い

気象庁予報（局地数値予報）

LFM surface Wind - Kanto Region
2025-07-26 07:00 UTC

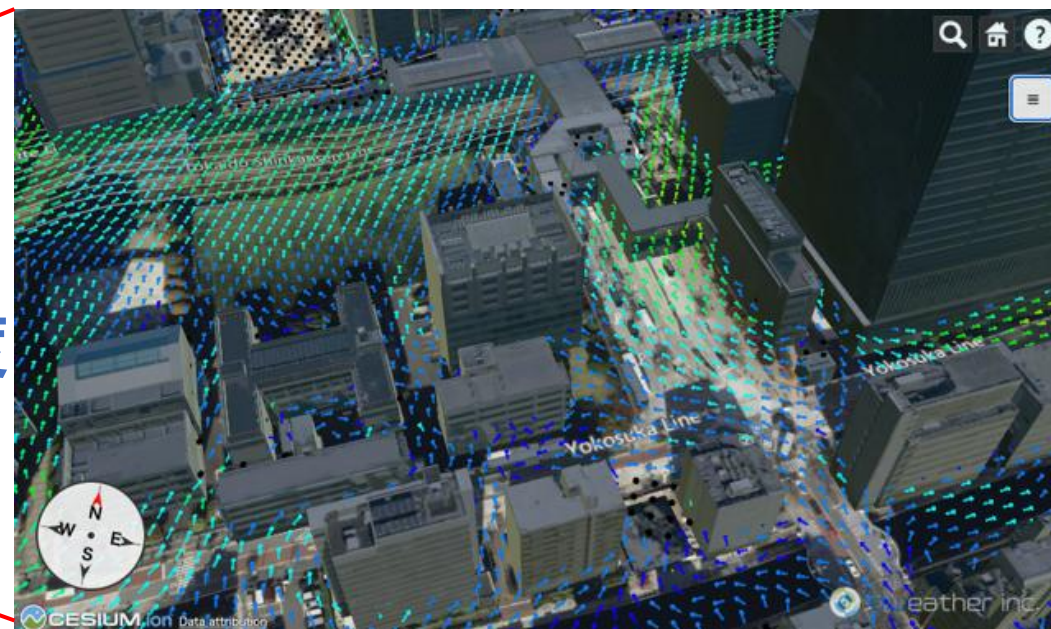


1000倍
高解像度

- 水平：2km刻み
- 鉛直：配信データは約250m刻み
- 大まかな地形の考慮
- 熱放射は鉛直方向のみ考慮

微気象予測

2025-07-26 07:00 UTC



- 水平：数m刻み
- 鉛直：数m刻み
- 建物、急峻地形、人工排熱等の影響を考慮
- **3次元**の熱放射

7/31(金) 日刊工業新聞 朝刊

8/29(土) テレビ東京 「ブレイクスルー」

本社(TEL)03-5644-7000 東京都中央区日本橋小網町14-1 日刊(土曜日・日曜日休刊) 昭和15年8月17日第3種郵便物認可

聖に投資加速
精神・神経疾患な
成に投資を加速、
Aを活発化。

ランサムウェア対策「カラートークンズ」
COLORTOKENS
日本総代理店 電巧社

日刊
THE NIKKAN
工業
KOGYO SHIMBUN
新聞
7月31日 金曜日
2026年(令和8年)
TODAY
28 深層断面
蓄電池再生 日本で本格始動
日本の蓄電池リサイクル市場
が本格的に動き出した。海外企
業の参入に加え、国内企業も関
連技術の開発や事業化を進める。
レアメタルを含む蓄電池を再
資源化する「都市鉱山」の活用

微気象予測で猛暑対策
ディーウエザー(東京都港区、小西晃平社長)は、東急不動産と共同で、地表付近の局
所的な気象を予測する「微気象シミュレーション」を活用した猛暑対策の実証実験を8月
に行う。涼しく移動できる経路を歩行者に提示し、実際に選んでもらえるかを検証する。
微気象技術は他システムに組み込む応用プログラミングインターフェース(API)の
提供も年内に開始。建設や物流、都市開発などでの活用を促し、7年後に100億円規模
の売り上げを目指す。

微気象は、地表付近(トポメータ数(WBG)シミュレーション)によ
で起こる気象の変化を「T」が低い「涼しいル
メートル単位で調べる「T」を比較できる。ふ
分野。東京科学大学発「ディーウエザー」と東急
「ディーウエザー」と東急「まれる」と期待する。
微気象予測APIは
精細な微気象データを
企業や自治体のシス
ムにつなぎ、建設現場
の熱中症対策や空調制
御の最適化、ドローン
の運航支援などに役立
てられる。ディーウエ
ザーは今回の東急不動
産との実証結果を今後
の技術開発に生かして
いく。

ブレイクスルー
涼しいルートが見える!?
“微気象”予測で酷暑に挑む
25分

ブレイクスルー
“微気象”予測で酷暑に挑む
テレ東
8月29日(土)放送分
9月5日(土)10:59 終了予定
番組TOPへ

お気に入り済み 4.1万
あとでみる シェア

プロダクト

超高精度・リアルタイム微気象 SaaS

数メートル解像度の微気象予測データを、Web API経由でリアルタイムにSaaS型で提供

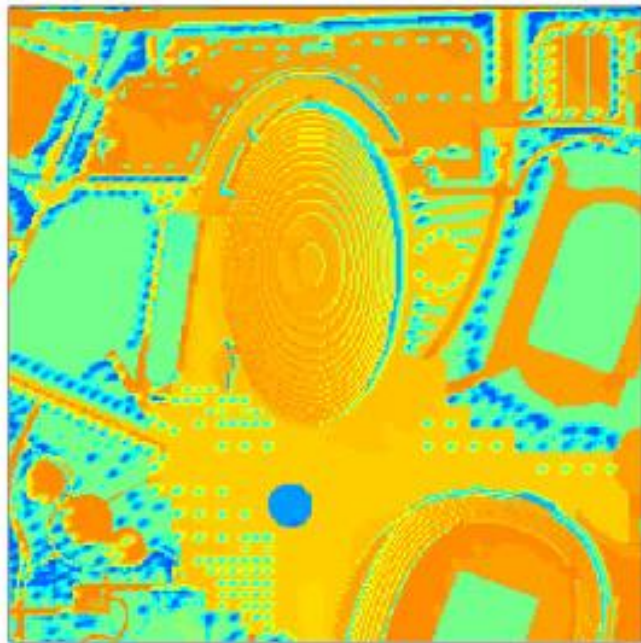


センサーレスで予測可能。実データ連携でさらなる高精度化が可能

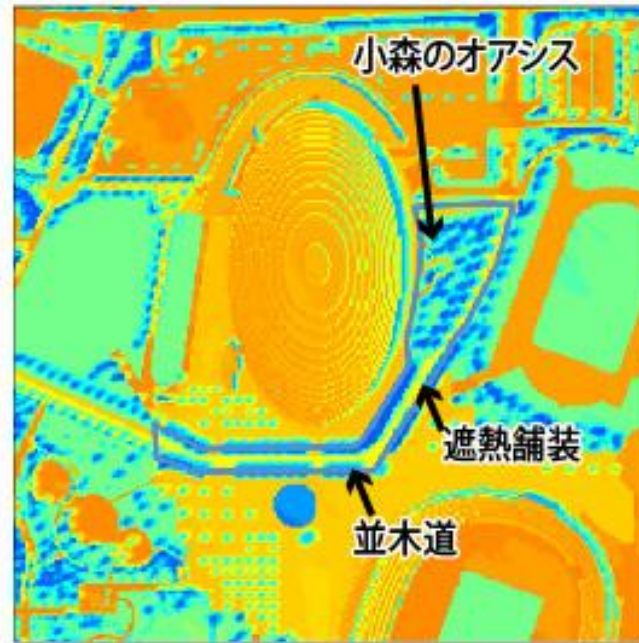
事例①：ヒートアイランド対策（アカデミアにおける研究事例）

暑熱環境をシミュレーションを行い、涼しさを最大化する街路樹の配置を提示。
並行に配置するよりも千鳥配置に植えた方が木陰が多くなることも分かった

対策前



対策後



©JAMSTEC

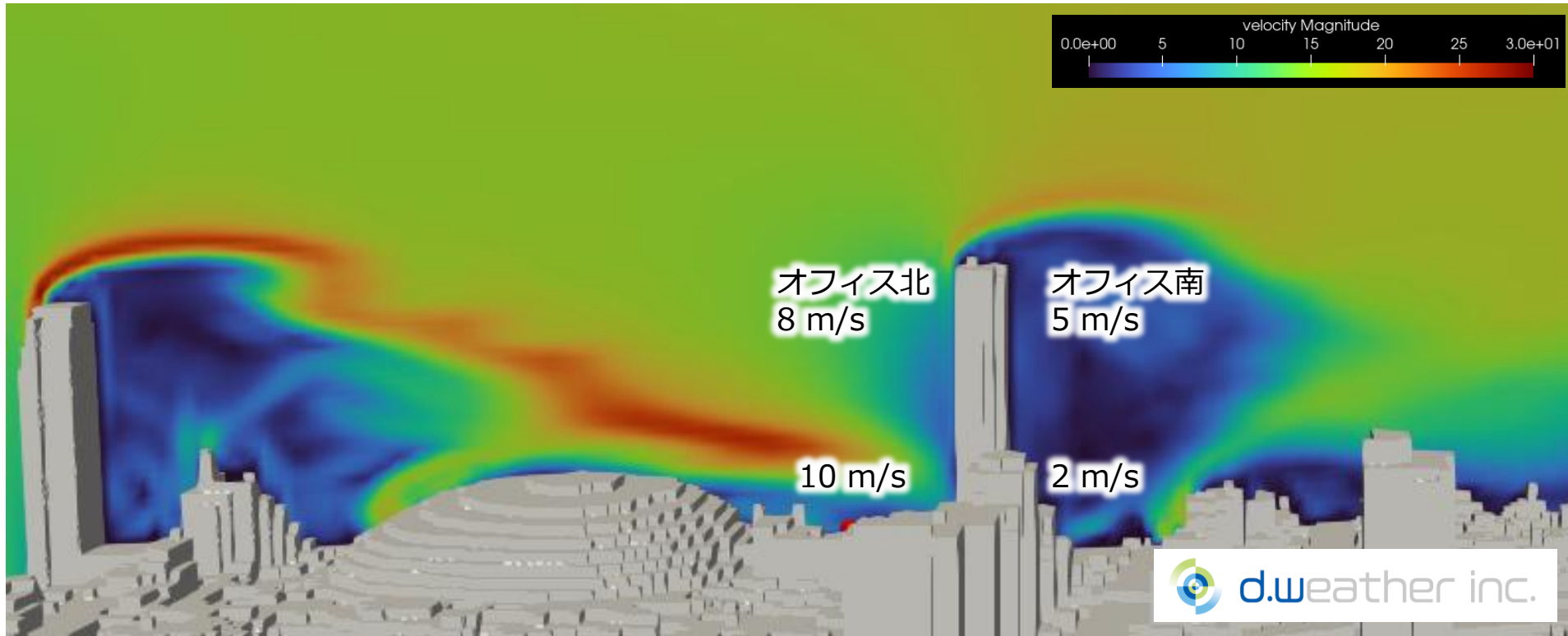


写真提供:埼玉県環境科学国際センター

対策領域の気温は対策前より0.7°C低下

事例②：リアルタイム微気象予測を活用したスマートビル

時刻、周囲の環境、高度、ビルのどちら側の壁面か等の条件により、気象現象は大きく異なる



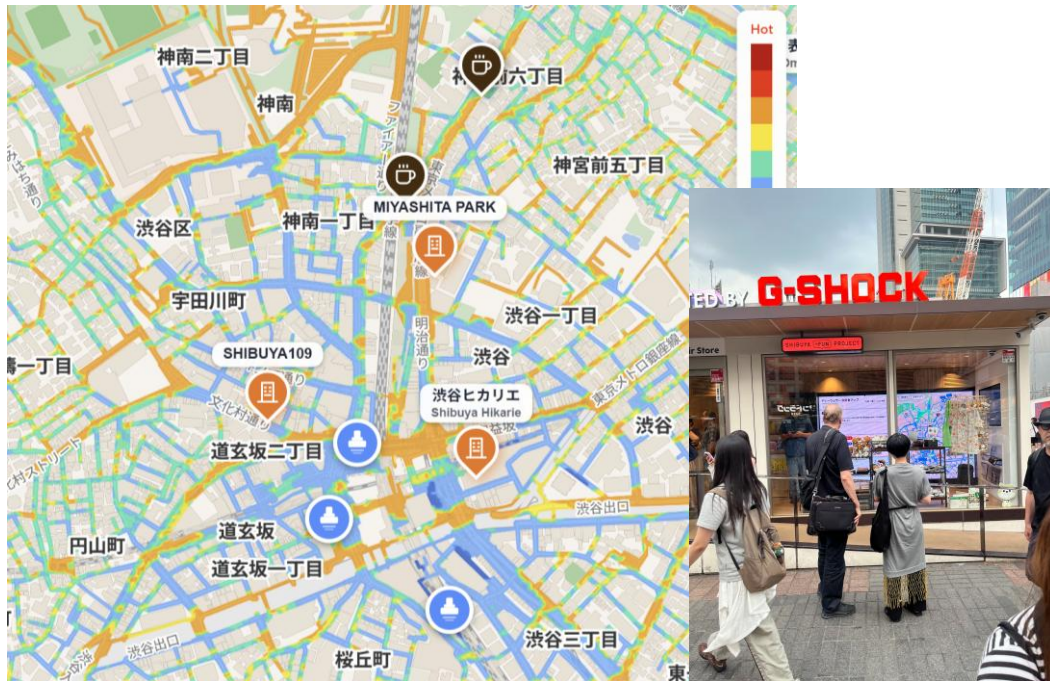
※図は東京のある街区の微気象予測結果から風速について可視化したもの。ビル周辺に書き込んだ風速の数値は説明用のイメージ

リアルタイム微気象予測データをもとに空調・換気を最適化

事例③：渋谷エリアでの暑さ対策の実証

2026年夏、東急不動産様と連携し、渋谷エリアにおいて、猛暑下でも訪れる人の回遊性を高め、涼しいスポットへの人流創出の実証実験に成功

リアルタイム暑さ指数マップ



渋谷駅前のサイネージに表示

最短と涼しいルート検索



涼しいルートの実証実験

事例④：エアモビリティ運航管理への活用

- ✓ 微気象予測データは、人を介さずにドローンを飛ばすフェーズ(レベル3以上)でMust Have
- ✓ 電力会社や鉄道会社では、人による点検から、完全に自律化したシステム（レベル4の常態化）への切り替えが目指されている
- ✓ 都市部での物流・点検では、微気象予測技術は必要不可欠



Terra Drone HPより



d.weather inc.

